

1	会議名	令和5年度第1回愛南町文化財保護審議会	
2	議題	1 新たな町指定文化財候補について(平城貝塚考古資料) 2 文化財保護審議会研修等	
3	開催日時	令和5年9月27日(水) 13時30分から15時30分まで	
4	開催場所	愛南町役場本庁 2階 第1会議室	
5	傍聴者数	0人	
出席者			
6	委員氏名	前田 充、木村 幹子、尾崎 千尋、多田 仁、宮本 英幸、 石村 聖、橋岡 濟隆、田中 純樹	
7	担当所属	所属名	生涯学習課
		担当職員 (職・氏名)	課長補佐 松本 安紀彦
8	その他の 出席職員	所属名	
		出席職員 (職・氏名)	
議事内容(次ページから)			

発言者	発言内容
(事務局) 松本補佐	<p>会の開始時間となりました。本日の議事につきましては会議の終了後に会議録を作成し、町のホームページで公開することとなっています。会議録の作成と公開については、事務局に一任していただくということによろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>(異議無し)</p>
(事務局) 松本補佐	<p>ありがとうございます。ここからは進行を前田委員長にお願いします。</p>
前田委員長	<p>こんにちは。本日は、お忙しいところ御参集いただき、ありがとうございます。</p> <p>先日、愛媛CATVで、多田委員が一本松中学校の生徒に考古学の授業をしているのを拝見し、私も勉強させていただきました。また、広報9月号でもそのことが紹介されており、愛南町の若い世代に地元の歴史を伝えていく大切さを改めて意識した次第です。本日は、新たな町指定文化財に関する議事が予定されています。委員の皆様のご積極的な御発言をお願いします。</p> <p>では、早速議事に入ります。事務局から説明をお願いします。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>本日は、新たな町指定文化財候補について協議いただき、その後に文化財保護審議会研修等につきまして御意見をいただければ幸いです。なお、坂本課長と河野主査は用務のため、欠席です。</p> <p>早速、新たな町指定文化財候補ですが、平城貝塚から出土した考古資料について、有形文化財(考古資料)としての指定を考えています。土器15点と石器21点そして骨角器12点の計48点になります。これから、指定する価値について御説明します。</p> <p>土器は、平城貝塚を標式遺跡とする平城式土器のうち、Ⅰ式とⅡ式になります。Ⅰ式は、縄文土器の伝統的な装飾技法である磨消縄文を用い、独特の波頭状の意匠を描くものです。Ⅱ式は、口縁部の文様が特徴である縁帯文を用い、第4次調査でまとまって出土しています。中には、口縁部の内面にも文様を持つものがあり、鹿児島県や伊豆半島方面との関係が課題となってくるものです。</p> <p>次に石器ですが、石鏃4点、石錘3点、磨石と敲石2点、石皿1点、打製石斧2点、磨製石斧2点、円盤型石器2点、削器2点、石核2点、打製石包丁1点になります。</p> <p>これらからは、平城貝塚における狩猟や漁撈、ドングリ等の加工、木材の切り出しと加工をうかがい知ることができます。また、ホルンフェルスという石材で作られたものは、四国西南地域独特の石器文化と言えます。平城貝塚と近しい時期の瀬戸内海ではサヌカイトという石材を専ら利用するのですが、それ</p>

	<p>とは異なる石器文化が四国西南地域にはあり、平城貝塚から出土した石器がその代表といえます。打製石包丁は弥生時代のものですが、愛南町はこの時代の遺跡が希少であるため、指定する価値があります。</p> <p>最後に骨角器ですが、貝刃1点、イノシシの牙で作られたアクセサリー2点、加工具1点、刺突具1点、巻貝で作られたアクセサリー1点、貝輪2点、シカの尺骨で作られた刺突具3点、そして鹿の角で作られた斧1点を考えています。これらは、貝塚という性格の遺跡以外で見つかることはまれで、石器同様に動物の解体という営みを示しているほか、アクセサリーからは縄文人の装いをうかがい知ることができます。</p> <p>これらは、全て貝塚という希少性の高い遺跡からの出土物です。その意味合いも含めて、町指定文化財として保護していく価値があると思われます。以上を説明とさせていただきます。</p>
多田委員	<p>平城Ⅰ式とⅡ式の説明が難しいので、詳しく教えてもらいたいのですが。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>平城Ⅰ式は、縄文がある部分とない部分を使い分けた、磨消縄文という縄文土器の伝統的な装飾技法を用いています。ですが、平城Ⅰ式の意匠は平城貝塚独特のものです。</p> <p>平城Ⅱ式は、第4次調査でまとまった出土が見られることと、内面に文様を持つものについては鹿児島県や伊豆半島方面と関係する可能性が考えられ、かつ、平城貝塚で多量に見つかっていることが特異であることです。これも平城貝塚の個性を示しています。</p>
多田委員	<p>平城Ⅱ式についてはよそとの関わりが想定できるものではありますが、その個性は平城貝塚独特であるということですね。そこを強調すべきだと思います。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>研究者からも、口縁部内面に文様を持つ縁帯文土器は、平城貝塚の個性として評価していても良いのではないかという御意見をいただいています。</p>
前田委員長	<p>高い価値があるということが分かってきたわけですから、それを前に出して説明していくようにすべきだと思います。</p>
石村委員	<p>平城式は、全国でそれほど有名なものなのですか。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>考古学の辞書や辞典類に出てきますし、研究者の間では平城式は平城貝塚の土器として認識されています。</p>
田中委員	<p>そういうことでしたら、平城式の価値は高いと思います。そ</p>

	<p>の価値をもっと前面に出してアピールすべきと考えます。</p>
多田委員	<p>愛南町自慢のものとなりますね。このような価値を持つ遺跡は数限られると思います。</p>
宮本委員	<p>冒頭で説明のあった指定の理由は専門的ですので、子供向けの絵本を念頭に公表する際には噛み砕いた内容にされると良いと思います。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>指定文化財の増加や見直しにより、『愛南町の文化財』は近いうちに作り直す時期が訪れると思います。その際は、宮本委員の御意見をいかしていきます。</p>
多田委員	<p>平城貝塚では、今回の指定候補以外に重要な土器や石器などがあります。それらの取扱いについてはどうする予定ですか。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>指定になれば、そのことを明示して平城公民館平城貝塚展示室に陳列することになります。それ以外のものについては、一本松郷土資料館でコンテナ収蔵することになります。</p>
多田委員	<p>それらは、後世にしっかり継承されていく必要が当然ありますよね。その取組はいかがでしょうか。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>平城貝塚出土物に限っての話ですが、総括報告書1に掲載したものは台帳で管理し、調査者が来られた後はもちろん、年1回程度はコンテナのしかるべき場所に入っているかどうか確認しています。そのほかからの出土物については、これからの作業になります。</p>
多田委員	<p>町の財産として適切な管理に努められているということですね。</p>
前田委員長	<p>ほかにご御見がないようであれば、指定の可否については次回にすることということでよろしいですか。</p>
委員全員	<p>(異議なし)</p>
前田委員長	<p>次に、多田委員が確認されたいことがあるようです。</p>
多田委員	<p>昨年秋に平城貝塚シンポジウムがありました。今年度の予定があれば教えてください。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>令和6年3月16日の土曜日に御荘文化センターでシンポジウムを開催する計画です。今回は、埋葬人骨と貝や動物の骨に</p>

	<p>焦点を当て、近年急速に研究が進んでいる状況とその中における平城貝塚の価値と可能性についてお話ししていただくことになっています。12月になってからポスター等で周知を図る計画です。</p>
多田委員	<p>ありがとうございます。次に文化財活用サポーターの動向と文化財保護審議会の研修について教えてください。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>文化財活用サポーターですが、8月下旬にガイダンスを行い、約10名の方から興味を示していただきました。11月末に1回目の講座を開催する予定です。</p> <p>文化財保護審議会の研修ですが、コロナ禍前に福岡へ、図書館と文化財展示施設の併存の視察に行ったのが最後になります。当時は図書館建設の話があったため、そのような形になりましたが、今回は目的とそれに則した行き先からの議論になります。</p>
多田委員	<p>町には国登録有形文化財が2件ありますし、保護が期待される建造物がありますので、この機会に建造物の視察研修に赴くのはいかがでしょうか。</p>
木村委員	<p>近いところでは、八幡浜市保内に指定建造物等が幾つかありますよね。</p>
多田委員	<p>八幡浜に行くのであれば伊方町まで足を伸ばし、8月に開館した新しい展示施設とそこで解説している町の歴史文化に詳しい町民ボランティアの姿を知るのも良いかと思います。</p>
田中委員	<p>文化財活用サポーターと似たような活動をしているところがあれば、そこに行くのも良いと思います。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>では、決定は次回ということとし、日帰りで伊方町の新しい展示施設と八幡浜の指定建造物の視察に行くということで進めましょうか。時期は令和6年2月後半ではいかがでしょうか。</p>
橋岡委員	<p>そのスケジュール感でいくと、次回は遅くとも12月中でないと難しくなりますよね。また、建造物を見に行くのであれば、その活用も合わせて見ておくべきだと考えます。</p>
(事務局) 松本補佐	<p>12月は前半に議会がありますし、年末年始の頃合いでもありますので、12月の第4週で調整するのはいかがでしょうか。</p>
委員全員	<p>(異議なし)</p>

石村委員	<p>大州では盛んに古建築物の活用がなされていますが、大州に限らず活用という視点でも見ておくべきという橋岡委員の御意見に賛成です。また、文化財活用サポーターの件がありますので、史跡や展示施設における地域住民の活躍も拝見できれば良いと思います。</p>
前田委員長	<p>石村委員ありがとうございます。さて、ほかに御提案等はありませんか。</p>
田中委員	<p>今日の会議でありました平城貝塚出土物の保存管理を含めてなのですが、町の歴史文化に関する映像資料の保存管理も重要だと思えます。施設整備の方向性も含めて、文化財保護審議会として提案するのはいかがでしょうか。</p>
多田委員	<p>文化財保護審議会として意見を出すのはできると思います。田中委員に賛成ですが、これから始めるということで良いと思います。</p>
宮本委員	<p>映像資料のほか、古文書もありますので、それらの維持管理とその設備も考えておくべきです。</p>
前田委員長	<p>ほかに御意見がなければ、木村副委員長から閉会の御挨拶をいただきます。</p>
木村委員	<p>本日も活発に協議いただき、ありがとうございました。大変刺激になりました。文化財の保護に関して、予算などの難しい課題はありますが、少しずつ前進に向けて意見を出し合えればと思います。</p> <p>皆様、本日は大変お疲れさまでした。</p>